



本日はよくお参り下さいました

境内の蠟梅も満開となりました。紅梅や白梅の見頃も近づいてきています。さて事後報告となって申し訳ないのですが、1月27日にテレビ朝日系の「ゆうゆう散歩」という加山雄三さんがお散歩される番組で久里浜にスポットがあたり当社も紹介されました。その日はちょうど12月5日で酉の市が行われており、賑やかな境内での撮影となりました。そして平成27年到来です。

今年のお正月は、初雪とともにやってきました。人出は例年よりぐんと少なく感じましたが、後日参拝された方の中には、寒くて体調を崩してしまい、なかなか来られなくて。これでやっとお正月が来たわ。とおっしゃる方もいらっしゃいました。天神様への篤い信仰心をお持ちで、ご立派なことだと思いました。今年は無年。ひつじは群れをなして行動するため、家族の安泰や平和をもたらず縁起のよい干支です。どうか今年一年が、皆さまにとって充実した素晴らしい年となりますようにお祈り申し上げます。権禰宜 道子



今年のお正月は、初雪とともにやってきました。人出は例年よりぐんと少なく感じましたが、後日参拝された方の中には、寒くて体調を崩してしまい、なかなか来られなくて。これでやっとお正月が来たわ。とおっしゃる方もいらっしゃいました。天神様への篤い信仰心をお持ちで、ご立派なことだと思いました。今年は無年。ひつじは群れをなして行動するため、家族の安泰や平和をもたらず縁起のよい干支です。どうか今年一年が、皆さまにとって充実した素晴らしい年となりますようにお祈り申し上げます。権禰宜 道子

2月

1日月首祭 月の初めの恒例祭祀。

3日節分 節分は旧冬を送り去り、新春を迎えるため豆を打って追儺(鬼払い)の行事をする日。

4日立春 立春、立夏、立秋、立冬は四季の起点とされています。特に春は新しい年の初めとなります。

11日 建国記念の日(紀元祭) わが国の建国は、神武天皇が大和の橿原宮で即位された辛酉(西暦紀元前660年)正月一日で、新暦にあたる2月11日が、紀元節と定められました。これが建国記念の日の由来です。

11日 初午 衣食住の神 お稲荷さんが京都伏見の稲荷大神が稲荷山の三ヶ峰に初めてご鎮座になった和銅4年2月の初午の日をしのび、全国の稲荷神社でお祭りが行われます。



15日月次祭 月の半ばの恒例祭祀。

17日 祈年祭 皇室の弥栄と国家・国民の一年の安泰を祈り2月17日に行われるお祭りです。大祭にあたります。我々の主食である米(稲)の豊穰をはじめあらゆる産業の発展、国力の充実を祈ります。当社の祈年祭はHPにてお知らせします。

日本神話の世界 全十一回 第十回 「出雲の国譲り」

大国主の神によって国作りが終わった葦原の中(国)は、騒がしく無秩序な状態でした。この葦原の中(国)を平定するため、天照大御神は、最初に天菩比神(あめのほのかみ)を遣わしますが三年も帰ってきません。次に派遣された天若日子は大国主の神の娘と結婚し八年も帰ってきません。謀反の心を見破られ天若日子は殺されてしまいます。そこで天照大御神は「今度はどの神を遣わしたらよいだろうか」とお尋ねになると、思金の神と諸々の神たちは次のように提案しました。「天の安の河の川上の天の岩屋にいる伊都之尾羽張神(いつのおはりの神)・伊耶那岐神が火之迦具土神を斬った時に用いた剣を遣わすべきです。でなければその神の子、建御雷神(たけみかづちのかみ)を遣わすべきです。」そこで天迦久神(あめのかくのかみ)をお遣わしになり、天尾羽張神(伊都之尾羽張神の別名)に依頼すると、「かしこまりました。このお役には我が子、建御雷神を遣わすべきでしょう」と答えたので、天鳥船神(あめのとりふねのかみ)を建御雷神にそえて遣わしました。二柱の神は出雲の国伊那佐の小浜に降り立ち、建御雷神は十掬剣(とつかのくるぎ)を抜いて波頭に逆さに刺して立て、その剣の切っ先にあぐらをかいて座り、大国主の神に向かって「天照大御神と高木の神(高御産巢日神)たかみむすびの



かみ)の別名)の「命令により、使いついて我々はやってきた。お前が支配する葦原の中(国)は天照大

御神が『私の御子の治める国である』と委任された国だ。それをお前はどうかと思うか」建御雷神に国譲りを迫られた大国主神は、子の事代主神(ことしろぬしのかみ)に判断をゆだねます。事代主神はすぐに事の重大さを理解し、国を譲ることにします。次に、大国主神はもう一人の子の建御名方(たけみなかたのかみ)に聞くように伝えます。建御名方は勇猛で元気が良く、建御雷神に戦いを挑みますが、簡単に打ち負かされてしまいます。そして長野県の諏訪に逃げ、命乞いをしてここに住むことを許されます。現在建御名方は、諏訪大社に祀られています。大国主の神はついに国譲りを決断しますが、条件を出しました。自分の住まいを天(神)の御子の宮殿の「よく立派に造営して欲しい」といいます。そうすれば、奥まった片隅の国に隠れてしまふよ。と言います。その宮殿を天日隅宮(あめのひすみのみや)といい、現在は島根県出雲大社となっています。次回は天孫降臨のお話です。 参考文献 『神話のおへそ』神社本庁監修 佛扶桑社発行 / 『現代語古事記』竹田恒泰著 佛学研ハブリッシング発行

